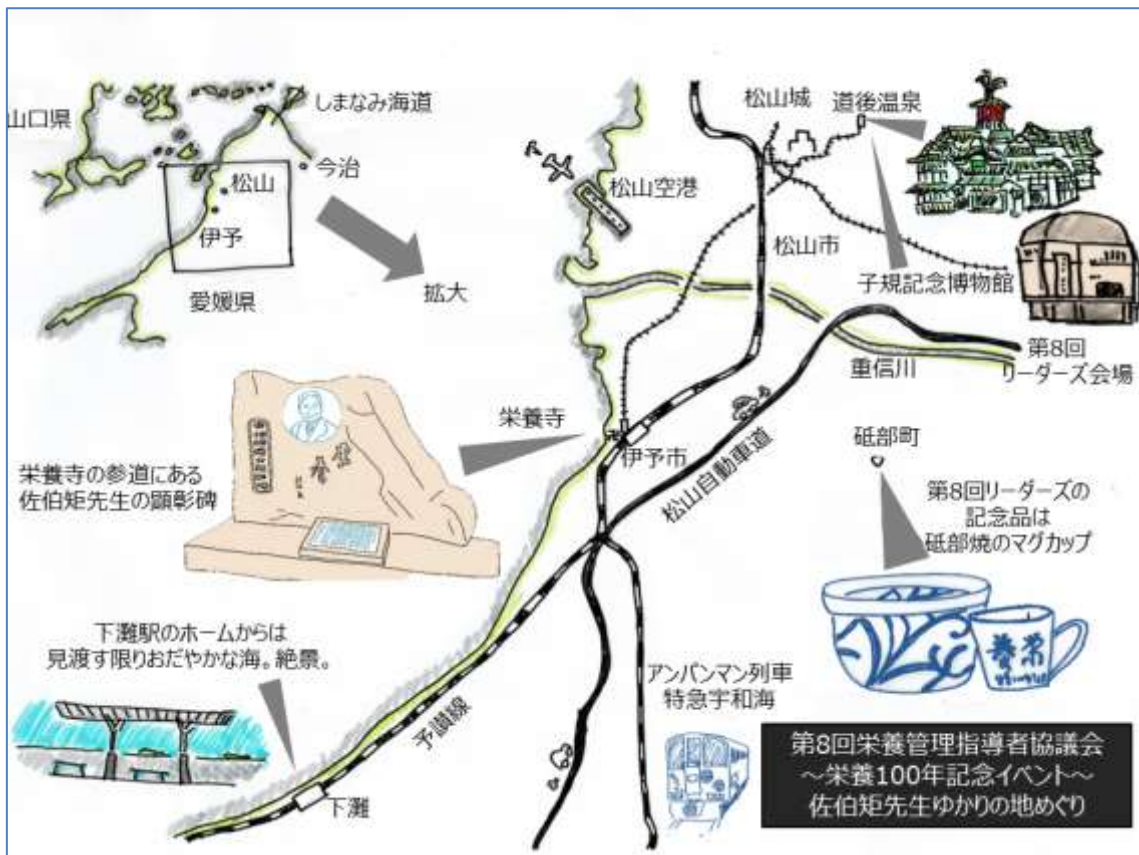


「栄養」という言葉ができて 100 年目を祝う学術集会 に参加しました

厚生連高岡病院 薬剤部 宮崎 徹



今年は栄養100年

「栄養」という言葉が定義されて100年経つことをご存知ですか？ また栄養学は日本で誕生した学問であることを知っていますか？ 愛媛県出身の医師、佐伯矩（さいきただす）先生が100年前に当時の文部省に建言して、それまで「營養」と記載されていたものを「栄養」という表現に統一しました。

栄養の名付け親 栄養の父 佐伯矩を知っていますか

愛媛県西条市で生まれ、伊予市で育った佐伯は伊予市から松山中学まで約 15 kmを徒歩で通学したと言います。その通学路に栄養寺という寺があります。

先生が朝晩通った寺の寺号が先生の建言に影響を与えたのではないかとされています。現在では榮養寺の参道に佐伯矩博士顕彰碑が建ち、本堂には先生自らが揮毫した「榮養」の扁額が飾られています。漢字の意味から見ても、営＝維持、榮＝成長・繁栄でありとすれば、生命が成長し繁殖するためには「榮養」のほうがふさわしいと解釈されています。松山の文豪夏目漱石の小説「坊ちゃん」に記述がありますが、大根の消化酵素を発見して「ジアスターゼ（アミラーゼの一種）」と命名したのも佐伯先生です。先生は明治から昭和にかけて栄養学の礎と数多の業績を残しました。先生は日本で最初の栄養研究所の所長になり、さらに栄養士養成のために佐伯栄養専門学校を作り、栄養学の発展に生涯を尽くしました。米の栄養素の研究は戦時下の食糧供給を左右する研究として重視されました。精米度は胚芽を含む七分搗米が良いとして奨励しました。昭和天皇が先生の研究所を視察し、以後ご自身が召し上がるご飯は七分搗米とされたのも有名な話です。

栄養100年を学術的にお祝いしよう！

大阪大学国際医工情報センター栄養デバイス未来医工学共同研究部門の井上義文特任教授から、栄養100年の学術集会を佐伯矩の生誕地で開催したいとご相談をいただいたのは今年の秋のことでした。最初は食の祭典のような盛大なものを想定していました。佐伯先生の意思を受け継ぎ、栄養療法の本質を極めその知見を医療の常識とするために尽力したレジェンドともいうべき方々を招聘して講演していただく。あわせて先生の功績を称え、栄養のこれからを考えようということになりました。参加者の記念品は佐伯先生の揮毫された栄養の文字をいれた砥部焼のマグカップに決まりました。

佐伯矩を顕彰する榮養寺へ

11月24日、私は松山の南隣にある伊予市の榮養寺を訪ねました。榮養寺は登録文化財の山門がある立派なお寺です。栄養サポートチームに所属する私としては門柱や扁額に「おお！榮養寺と書いてある」と感動しました。参道には佐伯矩博士顕彰碑があり気持ちはさらに高まります。

本堂には井上先生方がすでに到着されており、住職の高橋宏文師から寺の歴史と佐伯先生の松山中学時代の話を押聴しました。佐伯先生の「榮養」の扁額

も間近で拝見し記念撮影をしました。あまりに貴重な体験に、栄養学のさらなる発展を願わずにはいられませんでした。



栄養の同志と議論白熱「栄養100年記念パーティー」

その日の夜は、翌日の学術集会に備えて全国から集まった栄養学の同志の先生方のためにレセプション・パーティーが開催されました。3月の鹿児島での学術集会以来、先生方と懐かしく再開することができました。井上先生が参加者の先生を次々と指名しスピーチ大会となりました。私も栄養100年へのお祝い、それを支えた偉大な先輩方へ尊敬の念、会を企画した井上先生への感謝の気持ちを述べさせて頂きました。皆、時間が経つのも忘れて栄養を語り合いました。最後は福井県立病院の医師、栗山とよ子先生のご発声で一本締めし、明日の学術集会を盛り上げようと誓ってお開きとなりました。

栄養100年の歴史絵巻 伝説の先生方が栄養を熱く語る

栄養100年記念の「第8回栄養管理指導者協議会（PEN リーダーズ）」の学術集会会場は道後温泉近くに建つ子規記念博物館で開催されました。松岡子規らの業績を紹介する格調高い博物館です。開会前に井上先生が会場を回って、訪れた一人一人に挨拶をしておられました。



講演が始まりました。管理栄養士創設の苦勞を語られた中村丁次先生。佐伯矩先生の教え子で厚生省初代栄養指導官の原正俊先生が戦時中の佐伯 v.s. 高木兼寛の栄養論争の話。栄養寺の高橋宏文師による佐伯先生の幼少期の話。TPNの開発に携わった佐藤健太郎先生。今も管理栄養士としてご活躍の足立香代子先生。看護師に栄養教育の重要性を説いた山田繁代先生。日本への TPN や NST の導入に尽力した松末智先生。協賛をして下さった大塚製薬工場、テルモ、クリニコ、ニプロ、エイワイファーマの開発担当の皆様。次々と登壇され、栄養 100 年の歴史、輸液の開発、栄養サポートチーム誕生の逸話を次々にご講演いただきました。

最後の井上先生のご講演は、残念ながら私の飛行機の時間が迫り拝聴することが出来ませんでした。井上先生は後日お礼状で、ご講演について「かなりスライドを削った。不完全燃焼でした。」と言っておられるので、次回きっと良いお話を聞くことが出来ると期待しています。他にも多くの方々のご協賛をいただいてこの会が成立したとのことで、皆様に感謝申し上げます。参加して本当によかったと思います。ありがとうございました。

* * *

壮大な栄養 100 年を俯瞰する機会をいただいた我々医療者はこれを糧にさらなる前進をします、よりよい栄養をすべての人々が享受できるまで。 (了)